

第 29 回天草国際トライアスロン大会 派遣審判報告

(報告者) 佐賀県トライアスロン協会 脇田達司

(開催日) 2013 年 5 月 26 日(日)

(会場) 天草市本渡海水浴場～苓北町坂瀬川折り返し(バイク)～
野田橋・広瀬公園周回(ラン)～本渡運動公園陸上競技場

(担当セクション) トランジションエリア



(野中さん・大坪さん・脇田)

(審判実施報告)

今回はじめて県協会からの派遣審判として大会に参加してきました。

熊本県連合を中心に九州ブロック合わせて 70 人近くのマーシャルチームで大会を競技面からバックアップしました。前回まで 3 回は選手として参加しましたが、年を追うごとに参加者が増え大会も盛り上がっていることに驚きを感じました。それに伴ってはじめてトライアスロンにチャレンジする選手も増えていて、この天草国際がデビューという選手も多かったようです。私も初めてのオリンピックディスタンスが天草国際でしたので、選手の気持ちをしっかり感じながら審判にあたりました。

今回のポジションはトランジションエリア内でした。同じ佐賀県からの派遣審判 大坪さん・野中さんがいらっしやったのもあり、気持ち的には落ち着いて任務ができたのではないかと思います。

その中で感じたことを幾つか。

- バイクからランへのトランジションでヘルメットのストラップをバイクラックかける前に外している選手が目立った。
- バイクからランへのトランジションでバイクラックのかけ間違えが多かった。
(気づいた場合は選手に声かけを行ったが、後続の選手はバイクをラックへかけるのも大変だった。→出場選手のキャパに対応できるか)
- トランジションエリアでの大きな荷物があった。(リュックサック・小さなクーラーボックスなどもあった)
- 前開きファスナーの新ルールについては前日の競技説明会で徹底されていたのもあり、しっかり対応できていた。
- 同時に行われたアクアスロンのランスタートとエイジのバイクスタートが重なり接触も見受けられたが選手間でできる限りの危険回避を行っていた。
- 選手とマーシャルの線引きはしっかりしなければならない。(知り合いの選手との会話はかえって目立ってしまう)

また今回はエリートでのスタートグリッドのチェックという任務(大坪さん・内海さん(長崎)・黒岩さん(福岡)とともに)も当日急きよ担当することになり

エリート審判長の尾崎氏(兵庫)とエリート技術代表のブライアン・ジェフリ氏(ITU・シンガポール)からも「いい仕事してくれてありがとう」と労いの言葉を頂きました。

佐賀でバイクの走路員として 2 回マーシャルを務めました。今回のような大きな大会ではひとつのミスが大きな事故につながりかねません。ひとつひとつの任務に真剣に向き合っていきたいと改めて思いました。

最後に今回の派遣にあたり久保会長・川添理事長、一緒に派遣審判でお世話になった大坪さん・野中さんをはじめ出場された選手みなさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。